

第2学年 算数科学習指導案

児童	1組(31名)、2組(30名)、3組(30名)
指導者	1組 福本 美智子
	2組 小野寺 清子
	3組 齊藤 美津子

1 単元名 「新しい計算を考えよう かけ算(1)」(東京書籍2年下P2~24)

2 単元について

(1) 教材観

本単元は、学習指導要領の第2学年の内容A(3)「乗法の意味について理解し、それを用いることができるようにする。」をうけて設定されている。

第1学年では、「10を6こ集めた数は60である」といったような数の理解と関連づけて、ひとまとまりになっている数とまとまりの個数からものの総数を求めるなどの具体的な活動を通して、乗法の素地的な経験をしてきている。

ここでは、これらの経験に基づき、具体的な量 a をもとにして a の n 個分が m であることをとらえ、これを $a \times n = m$ と表現する活動へと導き、5の段の九九、2の段の九九、3の段の九九、4の段の九九を導入していく。乗法の意味に基づいて乗法九九を構成したり、その過程で乗法九九について成り立つ性質に着目したりするなどして、乗法九九を身に付け、1位数と1位数との乗法の計算が確実にできるようにすることをねらいとしている。

(2) 児童観

本単元に係わるレディネステストを実施した結果は、数を正しく数え5ずつまとめる問題の正答率は91%であった。「1あたりの数」と「いくつ分」に着目して問題場面をとらえ答えを求める問題は、正答率94%であった。2とび5とび10とびの数を答える問題の正答率は、88%であった。しかし、かけ算の立式を問う文章題では正答率が75%と高かったが、かけ算の式から答えを出す問題の正答率は40%であった。

これらの結果から、未習のかけ算九九に対する興味・関心が高く九九を暗記している児童が多いと考えられるが、かけ算の意味を理解しているとはいえない。数をまとまりで数えることより1つ1つ数えたしていく児童の方が多い。また、繰り上がりのあるたし算における計算の速さ正確さについても個人差が大きい。

(3) 指導観

本単元の指導にあたっては、はじめに「1つ分の数」×「いくつ分」=「ぜんぶの数」として乗法を意味づけ、おはじきで乗法の場面を表現したり、身の回りで乗法が適用できる場面を探したりする活動などを取り入れ、乗法の意味の理解を確実にしていきたい。乗法の意味の指導に関連して、乗法の式を読む指導を重視することが大切であると考え。その際、多様な場面をみてその意味をとらえて立式する活動をしていきたい。次に、乗法の答えは、被乗数を乗数の数だけ累加して求められることを理解させたい。そして、5、2、3、4の段を学習する。九九の構成の学習の過程では、アレイ図やおはじきなどを活用しながら、乗法の意味の理解をいっそう確実にするとともに、同数累加をはじめ、乗数と積の関係(乗数が1増えると、積は被乗数分だけ増えること)にも着目させながら、児童が自ら九九をつくり出す作業的活動を大切にしたい。また、交換法則などを見だし、これらを用いて、効率よく乗法九九を構成したり計算を確かめたりできるようにしたい。さらに、九九を覚えておけば計算が速くでき便利であること(九九の有用性)にも気づかせるようにしたり、九九カードによるゲームを取り入れたりして、九九の反復指導のみに偏らないよう配慮したい。

3 単元の目標

◎ 乗法の意味について理解し、それを用いることができる。

<関心・意欲・態度>・乗法のよさについて気づき、ものの全体の個数をとらえるときに進んで乗法を用いようとする。

<数学的な考え方>・乗法九九が用いられている場合について、「1 つ分の大きさ」「いくつ分」をとらえて全体の個数の求め方について考える。

<表現・処理>・乗法が用いられる場合を具体物や式で表すことができる。

・乗法九九(5、2、3、4の段)を構成し、確実に唱えることができる。

<知識・理解>・乗法が用いられる場合を理解する。

・乗法九九(5、2、3、4の段)の構成のしかたを理解する。

4 単元の指導計画と指導の構想(22時間)

時	目標	学習活動	評価規準	○主な算数的活動<仮説1> ◇習熟<仮説2>
①かけ算(7時間)				
1	「プロローグ」 ・p.2の絵を提示し、遊園地の入り口付近で整列した人とばらばらの人の数を数えることを通して、新しい計算への興味、関心を高める。 ・所要時間は10分程度			
2	○「1つぶんの大きさ」「いくつぶん」をとらえられるようになる。	・絵を見て、それぞれの乗り物に乗っている子どもの人数を調べる。 ・総数が同じでも1台に同じ人数ずつ乗っているものといないものがあることや、同じ人数ずつ乗っている場合でも1台に乗っている人数が違うことから、「1つぶんの大きさ」と「いくつ分」をとらえる。	(考)数量の関係を「単位とする大きさ」の「いくつ分」ととらえることができる。	○1つ分といくつ分の大きさをおさえて数量関係を言葉を用いて表す。 ○場面をおはじきなどの半具体物を並べて表現する。
3・4 (2組本時 2/2)	○乗法の意味を理解する。	・ $6 \times 3 = 18$ の式の意味を理解する。 ・用語「かけ算」を知る。 ・乗法の場面を式に表す。	(表)乗法の場面としてとらえることができる場面を乗法の式に表したり、式を読んだりすることができる。 (知)数量の関係を「単位とする大きさ」の「いくつ分」ととらえ、それを簡潔に表したものが乗法の式であることを理解している。	○半具体物の並べ方と言葉による表現とを対応させながら乗法の式で表す。 ◇定着問題を解く。 ◇適用問題を解く。 ◇発展問題を解く。
5	○乗法の意味の理解を確実にする。	・乗法の式から、その場面をおはじきで表す。 ・並んだおはじきを乗法の場面としてとらえ、乗法の式に表す。	(表)乗法の場面をとらえられる場面を式に表したり、乗法の式から場面を表現することができる。	○おはじきを使って乗法の場面を式に表したり、乗法の式から場面に表現したりする。 ◇定着問題を解く。
6 (3組本時)	○乗法の答えは被乗数を乗数の数だけ累加して求められることを理解する。	・場面をとらえ、立式や答えの求め方について考える。 ・乗法の答えは、被乗数を乗数の数だけ累加して求められることを理解する。	(表)乗法の答えを被乗数を乗数の数だけ累加する方法で求めることができる。	○半具体物を用いそこから累加の式を導き出す。 ◇定着問題を解く。
7	○乗法の場面としてとらえることができる場面が、身のまわりに多くあることを知るとともに、乗法の意味の理解を確実にする。	・[やってみよう]乗法の場面としてとらえることができる身のまわりの場面を探し、乗法の式に表す。	(関)学習内容を適切に活用して、活動に取り組もうとしている。	○自分で1つ分といくつ分を決めてかけ算の式に表す。
②5の段、2の段の九九(6時間)				
1	○5の段の九九を構成する。	・1台の車に5人ずつ乗っているときの1～4台分の人数を求める。 ・累加や5とび、アレイ図などを用いて5の段の九九を構成する。	(知)5の段の九九の構成のしかたを理解している。	○自動車の数が少ない順に調べ、乗数が1ずつ増えた時の数を求めて5の段の九九を構成する。

2 ・ 3	○5の段の九九を記憶し、適用する。	<ul style="list-style-type: none"> 用語「九九」を知り、5の段の九九を唱え、カードなどを使って練習をする。 5の段の九九の答えは5ずつ増えていることを確認する。 5の段の九九を用いて問題を解決する。 	(表)5の段の九九を唱えることができ、それを用いて身のまわりの問題を解決することができる。	○アレイ図で視覚的にとらえさせると共にカードを用いて繰り返し唱えて覚える。 ◇定着問題を解く。 ◇適用問題を解く
4 (1組本時)	○2の段の九九を構成する。	<ul style="list-style-type: none"> 1台の自転車に2人ずつ乗っているときの1～5台分の人数を求める。 累加や2とび、アレイ図などを用いて2の段の九九を構成する。 	(考)5の段の九九と同じ考えを用いて2の段の構成を考えている。 (知)2の段の九九の構成のしかたを理解している。	○アレイ図を用いて2ずつ増えていく様子を具体的に理解させながら2の段の九九を構成する。
5 ・ 6	○2の段の九九を記憶し、適用する。	<ul style="list-style-type: none"> 2の段の九九を唱え、カードなどを使って練習をする。 2の段の九九の答えは2ずつ増えていることを確認する。 2の段の九九を用いて問題を解決する。 	(表)2の段の九九を唱えることができ、それを用いて身のまわりの問題を解決することができる。	○アレイ図で視覚的にとらえさせると共にカードを用いて繰り返し唱えて覚える。 ◇定着問題を解く。 ◇適用問題を解く

③3の段、4の段の九九（7時間）

1	○3の段の九九を構成する。	<ul style="list-style-type: none"> 1台のコーヒーカップに3人ずつ乗っているときの1～4台分の人数を求める。 3×4の答えにいくつたせば3×5になるかを考える。 3×5の積に3をたせば3×6の積になることを活用して、3の段の九九を構成する。 用語「かけられる数」「かける数」を知る。 	(考)乗法について成り立つ性質を用いて、九九の構成のしかたについて考えている。	○累加だけでなく、色々な方法で答えが見つかることを知り、工夫して3の段の九九を構成する。
2 ・ 3	○3の段の九九を記憶し、適用する。	<ul style="list-style-type: none"> 3の段の九九を唱え、カードなどを使って練習をする。 3の段の九九の答えは、乗数が1増えると3増えることを確認する。 3の段の九九を用いて問題を解決する。 	(表)3の段の九九を唱えることができ、それを用いて身の回りの問題を解決することができる。	○アレイ図で視覚的にとらえさせると共にカードを用いて繰り返し唱えて覚える。 ◇定着問題を解く。 ◇適用問題を解く。
4	○4の段の九九を構成する。	<ul style="list-style-type: none"> 1台のジェットコースターに4人ずつ乗っているときの1～5台分の人数を求める。 4×3のかける数が1増えると答えはいくつ増えているか確かめる。 4の段では、かける数が1増えると答えが4増えることを活用して、4の段の九九を構成する。 	(考)乗法について成り立つ性質を用いて、九九の構成のしかたについて考えている。	○乗法の成り立つ性質の意識化をはかりながら4の段の九九を構成する。
5 ・ 6	○4の段の九九を記憶し、適用する。	<ul style="list-style-type: none"> 4の段の九九を唱え、カードなどを使って練習をする。 4の段の九九の答えは、乗数が1増えると4増えることを確認する。 4の段の九九を用いて問題を解決する。 	(表)4の段の九九を唱えることができ、それを用いて身の回りの問題を解決することができる。	○アレイ図で視覚的にとらえさせると共にカードを用いて繰り返し唱えて覚える。 ◇定着問題を解く。 ◇適用問題を解く
7	○問題作りによる、式の読みや式に表現することを通して、5、2、3、4の段の理解を深める。	<ul style="list-style-type: none"> 絵を見て、2×4の式で表すことができる場面を探す。 絵を見て、乗法の式に表すことができる場面を探し、式に表す。 	(関)乗法を用いる場面をとらえたり、言葉や式で表現したりしようとしている。 (考)乗法の場面としてとらえることができる場面を見つけ、式に表したり、乗法の式を読んだりすることを通して、乗法の式の意味について考えている。	○「1つ分」「いくつ分」とらえて乗法を用いる場面を探し、問題文を作る。

◎まとめ（2時間）

1	○学習内容を確実に身につける。	・「力をつけよう」に取り組む。	(表)学習内容を正しく用いて、問題を解決することができる。	◇定着問題を解く。
2	○学習内容の理解を確認する。	・「たしかめよう」に取り組む。	(知)基本的な学習内容について理解している。	◇定着問題を解く。

九九ビンゴ

○ゲームを通して、かけ算九九に主体的に取り組めるようにするとともに、その習熟をはかる。	・ゲーム(九九ビンゴ)に取り組みながら、かけ算九九に習熟する。	(関)学習内容を適切に活用して、活動に取り組もうとしている。	○ゲーム(九九ビンゴ)をする。
---	---------------------------------	--------------------------------	-----------------

5 本時の指導 《1組、公開授業2、10/22時間目》

(1) 目標 ○2の段の九九を構成する。

(2) 本時指導の考え方

仮説1に係り、本時の算数的活動は、乗法をイメージしやすい絵やアレイ図を活用しながら、5の段の九九を構成したときの考えを用いて、自ら2の段の九九をつくりだす活動である。この活動を通して、「何のいくつ分で何」というかけ算の意味をおさえ、2ずつ増えていく様子を具体的に理解させたい。また、自ら構成した2の段の九九表を観察することによって、乗数が1増えれば積は被乗数分だけ増えること等を見だし、効率よく乗法九九を構成したり、計算の確かめをしたりさせたい。

(3) 展開

	学習内容(番号)学習活動(◎) 予想される児童の反応(○)	指導上の留意点(・) 具体の評価規準(◇)	備考
つかむ 7	<p>1 問題把握</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>1台に2人ずつのっている自てん車が、なん台かあります。自てん車にのっている人は、みんなで何人ですか。</p> </div> <p>◎問題を読み、分かっていることやたずねていることを明らかにする。</p> <p>○1つ分の数</p> <p>○いくつ分</p> <p>○式 $2 \times$ (自てん車の数)</p> <p>2 課題把握</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>じてん車にのっている人数をしらべましょう。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・前時の遊園地でいろいろなのりものにのって遊んでいる絵を提示する。 ・問題文をもとに、1つ分の大きさが「2人」で、それが「自てん車の数分」あることをおさえる。 	絵紙版書
考える (仮説1 課題解決の場)	<p>3 見通し</p> <p>◎既習事項を想起し、見通しを持つ。</p> <p>○答えを求める方法は、たし算</p> <p>○2×1、2×2、2×3、2×4、2×5</p> <p>4 自力解決</p> <p>◎絵、おはじき、アレイ図を使って、自てん車の数が少ない場合から順に、乗っている全部の人数を調べる。</p> <p>○2人の1台分 $2 \times 1 = 2$</p> <p>○2人の2台分 $2 \times 2 = 2 + 2 = 4$</p> <p>○2人の3台分 $2 \times 3 = 2 + 2 + 2 = 6$</p> <p>○2人の4台分 $2 \times 4 = 2 + 2 + 2 + 2 = 8$</p> <p>○2人の5台分 $2 \times 5 = 2 + 2 + 2 + 2 + 2 = 10$</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・前時の5の段の九九の構成を想起させる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>◇ 具体の評価規準</p> <p>A：2の段の九九の構成を5の段の構成と関連づけて説明できる。</p> <p>B：2の段の九九は乗数が1増えると答えが2ずつ増えることに気づき、九九の構成の仕方を理解している。</p> <p>Cと判断される児童への指導 図やおはじきを使って乗数が1増えると答えが2ずつ増えることに気づかせ九九の構成をさせる。</p> </div>	おはじきアレイ図ノート

30	<p>5 比較検討</p> <p>◎5台分のときの式と答えを表す。 ○「2人の5台分」で「$2 \times 5 = 10$」 ○2、4、6、8、10と2とびに数えた。 ○$2+2+2+2+2=10$と計算した。 ○2人の4台分が8だから8人に2人をたして10人とした。</p> <p>6 中間まとめ</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>1台、2台、3台、・・・と台数が増えると答えは、2人、4人、6人・・・と2人ずつ増えます。</p> </div> <p>7 確かめ問題</p> <p>◎自てん車の数がさらに増えたときもこれまでのように全部の人数を求める。 ○2人の6台分 $2 \times 6 = 12$ ○2人の7台分 $2 \times 7 = 14$ ○2人の8台分 $2 \times 8 = 16$ ○2人の9台分 $2 \times 9 = 18$</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・答えの確認の場では自転車の写真とともにアレイ図とかけ算の式を関連させながら「2がいくつ分であるのか」をおさえていく。 ・台数と答えの数のふえ方に着目させ、2人ずつ増えていることに気づかせる。 ・2の段のかけ算の一つ一つの答えを累加や2とびの数え方で求めるのは面倒であることに気づかせ覚える必要性を意識できるようにする。 	<p>アレイ図</p> <p>プリント</p>
ま と め る 8	<p>8 まとめ</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>1台ふえると答えは、2人ずつふえます。</p> </div> <p>9 振り返りと次時の予告</p> <p>◎学習を振り返り、感想発表をする。</p> <p>◎次時の学習を知る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・2の段の九九の計算結果とアレイ図とを対応させながら、2の段の構成のしかたを自分の言葉でまとめさせる。 ・次時は、「2の段の九九」の学習をすることを知らせる。 	

5 本時の指導《2組、公開授業1、4 / 22時間目》

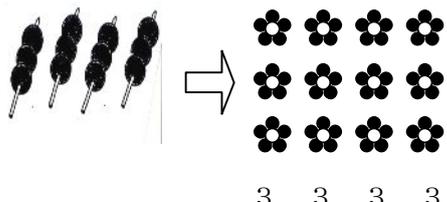
(1) 目 標 ○乗法の意味を理解する。

(2) 本時指導の考え方

仮説2に係り、習熟の場では、おはじきなどの半具体物を並べながら「何のいくつ分で何」という表し方を確認した上で、おはじきの並べ方と言葉を対応させた式を書かせ、それぞれの数の意味理解を定着させていく。そこで、プリントを3種類用意し、各自のスピードに合わせて練習問題を行わせる。1枚目の「定着問題」は、乗法としてとらえられる場面と式の表し方を定着させる問題を扱い、全員が解けるようにしたい。2枚目の「適用問題」は、教科書P3、4の遊園地の絵から乗法の式に表せる場面を見つけ、式に表す問題を扱い、なるべく全員が解けることをめざしたい。3枚目の「発展問題」は、文章問題を解いたり問題づくりをしたりすることで、更に定着を深めていきたい。問題を解くのに時間のかかる児童には個別指導を行い、1枚目までは終わるようにしたい。

(3) 展 開

	学習内容(番号)と学習活動(◎) 予想される児童の反応(○)	指導上の留意点(・) 具体の評価規準(◇)	備 考
つかむ 3	1 問題把握 りんごは、なんこありますか。 2 課題把握 どんなしきになりますか。	・前時と同じような課題にすることにより、学習活動への関心が持続できるようにする。	模型 紙板書
考える	3 見通し ◎「何個ずつのいくつ分」であるかを言葉で表現する。 ○りんごが1皿に2個ずつの3皿分 ○りんごが2個ずつの3皿分  4 自力解決 ◎おはじきを並べ、言葉による表現と対応させながら立式する。 ○ $2 \times 3 = 6$ 6個 ○  5 比較検討 ◎黒板におはじきを並べ、視覚的に確認する。  2 2 2 2×3	・前時の学習を生かし、言葉で表現したことを乗法の式に表すために、(1つ分の数)×(いくつ分)=(全部の数)の立式を理解できるようにする。 ・おはじきを操作することにより、「1つ分の数×いくつ分」という順序になっていることをおさえる。 ・乗法の式では、はじめに「1つ分の大きさ」を表す数を、次に「いくつ分」を表す数を書くことを確認する。	絵 おはじき ホワイト ボード

15	<p>6 中間まとめ</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 1つ分の数が同じときは、かけざんのしきをつかいます。 </div> <p>7 確かめ問題</p> <p>◎確かめ問題を解く。 「1串に3こずつのだんごがあります。4本分で何個になりますか。」 $3 \times 4 = 12$ 答え12個</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習課題に対応した形でまとめる。 	
まとめ める 5	<p>8 まとめ</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 1つ分の数が同じときは、かけざんのしきをつかいます。 </div>		
広 げ る （ 仮 説 2 習 熟 の 場 ） 22	<p>9 定着問題</p> <p>◎練習問題を解く。</p> <p>10 適用問題</p> <p>◎チャレンジ問題を解く。</p> <p>11 発展問題</p> <p>◎スペシャル問題を解く。</p> <p>12 振り返りと次時の予告</p> <p>◎学習を振り返り、感想を発表する。</p> <p>◎次時の学習内容を知る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・適用問題が終わった児童から、発展問題に取り組ませる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>◇ 具体の評価規準</p> <p>A：乗法の意味を理解し、発展問題まで解くことができる。</p> <p>B：乗法の意味を理解し、適用問題まで解くことができる。</p> <p>Cと判断される児童への指導 「1つ分の数」と「いくつ分」なのかを、おはじきを使って場面理解させる。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・がんばったことやできるようになったこと等を振り返る。 ・次時は、おはじきを使っていろいろなかけ算を考える学習をしていくことを知らせる。 	プリント 教科書

5 本時の指導《3組、公開授業1、6 / 22時間目》

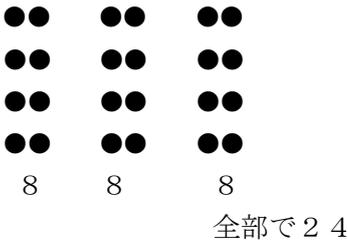
(1) 目標 ○乗法の答えは被乗数を乗数の数だけ累加して求められることを理解する。

(2) 本時指導の考え方

仮説1に係わり、本時の算数的活動は、半具体物であるおはじきを用いて問題場面を具体的にとらえ、累加の式を導き出す活動である。その際、「1つ分の数」と「いくつ分」に着目させ、乗法の答えは「1つ分の数」を「いくつ分」にあたる数だけ繰り返して加えていく、同数累加で求めることができることを理解させたい。その上で、乗法の式を見れば、何をいくつ分たせばよいのかがすぐに分かることも理解させたい。

(3) 展開

	学習内容(番号)と学習内容(◎) 予想される児童の反応(○)	指導上の留意点(・) 具体の評価規準(◇)	備考
つかむ 5	<p>1 問題把握</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>1ふくろにパンが8まいずつ入っています。 3ふくろでは、パンは何まいになりますか。</p> </div> <p>◎問題を読み、たずねていることや分かっていることを明らかにする。 ○「1つ分の数」は8 ○「いくつ分」の数は3 ○式 8×3</p> <p>2 課題把握</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>かけざんの答えのもとめかたを考えよう。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・実物を提示し関心を高める。 ・求めること、分かっていることを確かめる。 ・「8枚のパン」が「3袋分」であることから「8枚の3つ分」であることをおさえる。 ・乗法で立式させる。 	パン 紙板書
考える (仮説1 課題解決の場)	<p>3 見通し</p> <p>◎おはじきを並べ、見通しを持つ。 ○8が3つ分ある。 ○たし算で求められそう。</p> <p>4 自力解決</p> <p>◎8×3の答えの求め方を考える。 ○式にかく(3口の累加) $8 + 8 + 8 = 24$</p> <p>○式にかく(2口の累加) $8 + 8 = 16$ $16 + 8 = 24$</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・おはじきを用いて、8が3つ分であることをおさえる。 ・どの方法でも考え方の説明を書かせるようにする。 ・複数の考え方を書くよう指示する。 ・1つずつ数えている児童には、8が3つあることから、たし算を想起させる。 ・事前に九九を覚えている児童には、どうして24になるのかを考えさせる。 	おはじき ホワイトボード

25	<p>○図にかく</p>  <p>○絵にかく</p>  <p>5 比較検討 ◎それぞれの考え方と答えを発表する。 ◎答えの求め方を確認する。</p> <p>6 中間まとめ</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;"> <p>8 × 3の答えは8を3かいたすともとめることができます。</p> </div> <p>7 確かめ問題 ◎確かめ問題を解き、かけ算の答えの求め方を確認する。 ○ $4 \times 5 = 20$ $4 + 4 + 4 + 4 + 4 = 20$</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>◇ 具体の評価規準</p> <p>A：乗法の答えを被乗数を乗数の数だけ累加する考え方を用いて、いろいろな方法で求めることができる。</p> <p>B：乗法の答えを被乗数を乗数の数だけ累加する考え方を用いて求めることができる。</p> <p>Cと判断される児童への指導 乗法の答えは被乗数を乗数の数だけ累加して求められることを理解させるために、おはじきを用いながら個別指導をする。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 8×3の答えは、$8 + 8 + 8$の累加の計算で求められることをおさえる。 ・ 「1つ分の数」と「いくつ分」をおさえてから立式する。 ・ おはじきや式を見て累加による方法で答えを求めさせる。 	
まとめ 5	<p>8 まとめ</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;"> <p>かけざんの答えは「1つ分の数」を「いくつ分の数」だけたすともとめることができます。</p> </div>		
広げる 10	<p>9 定着問題 ◎練習問題を解く。</p> <p>10 振り返りと次時の予告 ◎学習を振り返り感想発表する。 ◎次時の学習内容を知る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 解決の見通しが持てない児童には、個別指導をする。 ・ 次時は身の回りから乗法の場面を探すことを知らせる。 	